

## 第6学年2組 家庭科学習指導案

授業日 平成30年7月11日(水) 4校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 尾形 美穂

会場 6年2組教室

### 1 単元名

和の暮らしで快適に ―暑い季節と日本の生活―

### 2 本単元の価値

本単元は、新学習指導要領「B衣食住の生活」の内容を受けて設定したものである。

(2) 内容の「B衣食住の生活」については、次のとおり取り扱うこと。

ア 日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮すること

(6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫すること。

本単元は、家庭科の生活文化の継承・創造することに着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、日本の生活文化のよさに気付き、季節に合わせた生活の仕方を考え、工夫しようとすることを目指すものである。グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、人々の生活の仕方は多様化してきている。そのような中で、日本の風土に合わせた生活の知恵から学び、よりよい生活の仕方を判断したり、工夫したりする資質・能力がこれからの未来を生きていく子どもには必要である。

本単元で扱う「住まうこと」は、日常の健康・快適・安全な生活のためには、必要不可欠な生活の営みの土台である。しかし、子どもは、その営みの中で、昔の人々の知恵と工夫で受け継がれてきていることとその「よさ」までは理解していない。本単元でいう「よさ」とは、機械や電気エネルギーなどが無い時代の「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」など、暑い季節を過ごすための工夫、先人の知恵のことである。

本単元では、家庭科を中心に国際理解教育と関連付けて単元開発を行う。家庭科単独で学習を行うよりも効果的に「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を発揮できる。国際理解教育で他国の生活文化と日本の生活文化について学んだ子どもは、生活文化にはその国々の風土や事情に合わせて、先人の知恵と工夫があることを理解する。このことは、日本の生活文化のよさに目を向けることにつながる。この時点では、生活文化と自分や家族の生活とを関連付けて考えていない。そのような子どもに、暑い季節に機械やエネルギーに頼らず快適に過ごすことのできる日本の生活文化を実習や観察・実験を通じて、体験させる。

このような学習過程を通して、日本の生活文化のよさに目を向け、状況に合わせて生活を工夫することの大切さを実感し、自分たちの生活をよりよくしようとする実践的態度の育成が期待できる。このことに本単元の価値がある。

### 3 本単元で目指す姿

**日本の生活文化のよさを基に暑い季節を快適に過ごす生活の仕方を考え、実践しようとする子ども**

具体的には、日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、生活の問題点について多角的にとらえ、解決策を構想する力という資質・能力を発揮して「冷房器具がなくても「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」という暑い季節を過ごすために日本に昔から受け継がれている生活の仕方で工夫できた。

そして、それらの工夫は今でも様々なところで生かされている。自分の生活にも「風通し」をよくして「風鈴」を取り入れていきたいと思った」などと目的を達成した姿。

#### 4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

#### 5 指導計画 全5時間

単元カード参照

#### 6 指導の構想

子どもは、これまでに家庭科の題材で取り上げた暑い季節を快適に（家庭科の「見方・考え方」：快適・安全・健康に着目し、自分や家族の生活と関連付けて考える）過ごす「見方・考え方」を明確にし、住まい方として「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」などの知識・技能を身に付けている。さらに、日本の生活文化と他国の生活文化とを比較させ日本の生活文化に目を向けさせる学習（国際理解教育）を行った。国の風土や事情に合った工夫や先人の知恵によって生活文化が異なることなどの知識をもち、国際理解教育の「見方・考え方」が内在され、資質・能力が育成された子ども（C0）に、次のように働き掛ける。

##### 働き掛け1

**自分たちの生活の仕方と日本の暑さを快適に過ごす工夫が分かる資料を提示し、生活経験を問う。**

自分たちの生活の仕方の事実に出合わせ、自分の生活の実際と日本の暑さを快適に過ごす工夫とがかけ離れていることに気付かせるための働き掛けである。

子どもに、自分たちの生活の仕方と日本の暑さを快適に過ごす工夫が分かる資料を提示し、生活経験を問う。それは、「見方・考え方」を引き出し、子どもに自分たちの生活の仕方と日本の暑さを快適に過ごす工夫とがかけ離れていることに気付かせるためである。子どもは、自分たちの生活の仕方と日本の生活文化とを比較しながら生活経験を話す（家庭科①）。国際理解教育で学習したことを基に子どもは、**日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考える**という「見方・考え方」を働かせ始める。家庭科で獲得した知識・技能から家庭科で獲得した知識・技能から「冷房器具を上手に使えば快適なのに、日本ならではのものって本当に涼しくなるのだろうか」などと疑問をもつ。

そのような子どもに次のように働き掛ける。

##### 働き掛け2

**暑い季節を快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化を1つ試す場を設定する。**

暑さを快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化のよさに気付かせ、学習の目的を設定させるための働き掛けである。

暑さを快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化に疑問をもった子どもに、「打ち水」を試してみることを提案する。それは、**日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考える**という「見方・考え方」を明確化し、目的を設定させるためである。「打ち水」を試した子どもは、**日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考える**という「見方・考え方」を明確にし、国際理解教育での学習を想起して『「打ち水」は、涼しくなった。やっぱり、日本には日本の風土に合った方法がある』『日本の生活文化は、自分たちにもできそうだ』『自分たちの教室を涼しくできそうだ』と学習の見通しをもつ。

そのような子どもに自分たちの教室で暑い季節を快適に過ごすには、どうするかを問う。それは、子どもに自分たちのこととして目的を設定させるためである。すると子どもは、「日本の生活文化を取り入れて、自分たちの教室を涼しくする方法をやってみよう」などと目的を設定する（家庭科③）。

##### 働き掛け3

**目的を達成するための場を設定し、検証方法を問う。**

暑さを快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化を実際に試し、日本の生活文化のよさを

検証させるための働き掛けである。

目的を設定した子どもに、暑さを快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化を試す場を設定する。そして、本当に目的が達成されたのか検証する方法を問う。それは、働き掛け4で科学的根拠をもって日本の生活文化のよさを実感させるための布石である。子どもは「室内の温度を測るとよい」「解決策をやる前とやった後の教室で過ごしたときの違いを話し合えばよい」「最初に自分たちのやった工夫との違いを比べればよい」などと検証方法を考える。検証方法を決めた子どもは、「よしず」や「すだれ」、「風鈴」などの設置場所を決めたりして、「打ち水」を試したりする（家庭科②**思考力・判断力・表現力， ツール活用能力， 協働性**）。

そのような子どもに次のように働き掛ける。

#### 働き掛け4

**解決策を実際に検証する場を設定する。**

日本の生活文化のよさに確かな価値観をもたせるためである。

子どもの話合いで出た日本の生活文化は、解決策として、暑さを快適に過ごすという目的を達成することが本当に可能なのか試し、検証する場を設定する。子どもは、温度計で室温を測定したり、感じたことをワークシートに記入したりして検証する（家庭科②**思考力・判断力・表現力**）。解決策の検証結果から分かったことや思ったことをワークシートに書かせる。子どもは、検証結果から分かったことや思ったことを書くことで、日本の生活文化のよさを実感する。

この一連の学習の過程を通じた姿が目指す姿の**日本の生活文化のよさを基に暑い季節を快適に過ごす生活の仕方**を考え、実践しようとする子ども（Cn）である。（家庭科③**態度**）

#### 働き掛け5

**目的を達成した過程を振り返らせ、次の学習に生かせると思うことを問う。**

目的を達成するために発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

目的を達成した子どもに一連の学習過程を振り返らせ、次の学習に生かせると思うことを問う。子どもは「他国の文化と日本の文化を比べたり、知ったりすることで今の生活の仕方を工夫できるヒントが見付かる。そして、実際に試すことで本当にその工夫がいいのかどうか確かめることができる」などと一連の学習過程において、資質・能力を発揮したことを自覚する。

## 7 本時の構想（本時2／4時間）

### (1) ねらい

暑い季節を快適に過ごすために、日本の生活文化が活用できるのではないかという見通しをもつことができる。

### (2) 主張（展開）

#### このような子どもに（C0）

- これまでに家庭科の題材で取り上げた日本の暑い季節を快適に過ごす「見方・考え方」を明確にし、住まい方として「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」などの知識・技能を身に付けている。
- 他国の文化や日本の文化を知る学習（国際理解教育）で、その国の風土や事情に合った工夫や先人の知恵によって生活文化が異なることを理解している。

#### このように働き掛けると【働き掛け1】

- 自分たちの生活の仕方と日本の暑さを快適に過ごす工夫が分かる資料を提示し、生活経験を問う。
  - ・ 指示「まずこの写真を見てください」
- ※ 冷房器具、駅前のミストなどの写真と「すだれ」「よしず」「打ち水」「風鈴」などの写真を提示する。



- ・発問「見たことありますか」「家にありますか」「使ったことありますか」「どういう効果があると思いますか」
- ※ 生活経験を想起させるような発問をする。
- ※ 発問の内容を基に分類する。
- 家庭科の知識・技能を想起させる。
- ・発問「家庭科の学習や皆さんの生活を考えたときに、この分類結果からどんなことを思いましたか」

### このようになり (C1)

- 子どもは、自分たちの生活の仕方と日本の生活文化とを比較しながら生活経験を話す。
  - ・家にはないよね。冷房器具があるし、必要ないでしょう。
  - ・祖父母の家で見たことがあるような。
  - ・「よしず」「すだれ」は、カーテンの代わりだよ。直射日光を遮るよね。
  - ・電気とか使わないから、省エネだね。
  - ・冷房器具も設定温度とかで工夫すれば、省エネになるよ。
  - ・風鈴は、売っているよね。いい音がするよ。蝉が鳴く音より涼しく聞こえるかも。
  - ・風鈴は、風があるところじゃないと音は鳴らないんだよ。
  - ・じゃあ、音が鳴るってことは、風があつて涼しいのか。
  - ・夏の風って温かいよね。冷房器具には勝てないよ。
- 家庭科で獲得した知識・技能から疑問をもつ。
  - ・冷房器具を上手に使えばエネルギー節約にもなるし快適なのに、なぜまだ使ってるんだろうね。
  - ・教科書にも紹介されているしね。
  - ・日本の昔からある生活文化で本当に涼しくなるのかな。
- ※                     のように、日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ始めて、自分の生活を振り返っていると見なし通過とする。 **★家庭科①**

----- 本時ここから -----

### このように働き掛けると【働き掛け2】

- 「打ち水」を試してみることを提案する。
  - ・提案「みなさんが、本当に昔から伝わる日本の生活文化は涼しくなるのかという疑問にお応えするために今日は、『打ち水』をやってみようと思うのですが、やってみたいですか」
- ※ 試してみたいかどうか挙手で確認する。
- ※ 補助発問として「打ち水」試した後の効果を問う。
- 自分たちの教室で暑い季節を快適に過ごすには、どうするかを問う。
- 発問「これから、自分たちの教室を涼しくするために、どうしたいですか」
- ※ 学習の目的としていいのか挙手で確認する。

### このようになり (C2)

- 「打ち水」を試し、学習の見直しをもつ。
  - ・「打ち水」は、涼しくなった。やっぱり、日本には日本の風土に合った方法がある。
  - ・日本の生活文化は、自分たちにもできそう。
  - ・自分たちの教室をすずしくできそう。
- 目的を設定する。
  - ・【学習の目的】日本の生活文化を取り入れて、自分たちの教室を涼しくする方法をやってみよう。
- ※                     のように、発言や挙手をしていたら、日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を明確にし、目的を設定したと見なし通過とする。 **★家庭科③**

----- 本時ここまで -----

### このように働き掛けると【働き掛け3】

- 本当に目的が達成されたのか検証する方法を問う。
  - ・発問「みなさんが、解決策としてやってみようと思うことを実際に試してみて、快適になるのか検証します。快適になったかどうか確かめるには、どうしたらいいですか」
- ※ 「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」の検証方法を記述できるワークシートを用意する。
- 暑さを快適に過ごすための昔から伝わる日本の生活文化を試す場を設定する。
  - ・指示「みんなが試したいと考えた「よしず」「すだれ」「風鈴」「打ち水」の道具を用意しました」

### このようになり (G3)

- 子どもは検証方法を考える。
  - ・室内の温度を測るとよい。
  - ・解決策をやる前とやった後の教室で過ごしたときの違いを話し合えばよい。
  - ・最初に自分たちのやった工夫との違いを比べればよい。
- 【「風通しをよくすること」の検証方法】
  - ・風鈴が鳴れば、風通しがあるということだ。
- 【「直射日光を遮ること」の検証方法】
  - ・「よしず」や「すだれ」をする前とした後で電気を消そう。そして、教室の日の当たり具合をみる。
- 【「体温や体感を下げる」の検証方法】
  - ・「打ち水」を同じ気温の日で試して、やる前と後とで教室の室温を比較する。
- 「よしず」や「すだれ」、「風鈴」などの設置場所を決めたり、「打ち水」を試したりする。
  - 【「風通しをよくすること」の試しの活動】
    - ・窓の開け方を工夫しよう。
    - ・入り口と出口の開け方を変えると風通しがよくなるかも。
    - ・「風鈴」を下げて風通しを確かめようよ。
  - 【「直射日光を遮ること」の試しの活動と】
    - ・「よしず」とか「すだれ」を教室のベランダにやってみるといいかもね。直射日光を遮るし、カーテンほど暗くならないかもね。
  - 【「室温や体感温度を下げること」の試しの活動】
    - ・「打ち水」をやってみよう。ベランダに水をまくってどうかな。周りの気温が下がると涼しくなるよ。
    - ・「風鈴」は、音が涼しい感じがするね。
- ※ .....のように発言していたり、ワークシートに記述していたりしていたら資質・能力を発揮したと判断し、通過とする。 ★家庭科②

### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 解決策として、本当に暑さを快適に過ごすという目的を達成することが可能なのか試し、検証する場を設定する。
  - ・指示「実際にやってみましょう。本当に涼しくなったか検証し、確かめてください」
- ※ 検証できる道具と検証結果が記述できるワークシートを用意する。
- ※ 検証結果を共有する。
- 解決策の検証結果から分かったことや思ったことをワークシートに書かせる。
  - ・指示「検証結果から分かったことや思ったことをワークシートに書きましょう」
- ※ 検証結果の下に分かったことや思ったことを書くことができるようなワークシートを用意する。

### このようになる (Cn)

- 温度計で室温を測定したり、感じたことをワークシートに記入したりして検証する。
  - 【「風通しをよくすること」の検証】

・風通しが良くなって「風鈴」が鳴った。風が通ると涼しく感じる。

【「直射日光を遮ること」の検証】

・室温が〇℃も違う。

・ほどよい光と直射日光を遮ることとどちらもできていいね。電気もつけなくていいよ。

【「室温や体感温度を下げること」の検証】

・打ち水をするとその場の気温が〇℃も下がった。

・打ち水をするという行動も涼しさを感じた。

※ \_\_\_\_\_のように、よさを判断することにつながる記述があったら、資質・能力を発揮したとし、通過とする。 **★家庭科②**

○ 検証結果から分かったことや思ったことを書くことで、日本の生活文化のよさを実感する。

・実際に室温も下がったし、風通しも良くなったから前の教室より快適になった。冷房器具がなくても、日本の暑い季節を快適に過ごす工夫はできると思った。

・冷房器具がなくても「風通しをよくすること」「直射日光を遮ること」「室温や体感温度を下げること」という暑い季節を過ごすために必要なことを日本に昔から受け継がれている生活の仕方で工夫できた。そして、それらの工夫は今でも様々なところで生かされている。自分の生活にも「風通し」をよくして「風鈴」を取り入れていきたいと思った。

※ \_\_\_\_\_のように、日本の生活文化のよさを感じ、暑い季節を快適に過ごす生活の仕方考えることができたということと共に \_\_\_\_\_のように、実践してみようといった記述をしていたら表れありとする。 **★家庭科③態度**

#### このように働き掛けると【働き掛け5】

○ 目的を達成した過程を振り返らせ、次の学習に生かせると思うことを問う。

・発問「今回の学習で、次の学習にも生かせると思ったことはどんなことがありましたか」

※ 学習の一連の流れを確認し、記述できるワークシートを用意する。

#### このようになる (G5)

○ 一連の学習過程において、どのような資質・能力を発揮したのか自覚する。

・他国の文化と日本の文化を比べることで今の生活の仕方を工夫できるヒントが、見つかる。そして、実際に実習や観察・実験することで、本当にその工夫がいいのかどうか確かめることができる。

※ \_\_\_\_\_のように、一連の学習過程において、振り返り、発揮した資質・能力に関する記述をしていたら、発揮した資質・能力を自覚している姿とする。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC<sub>n</sub>になったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_のように、日本の生活文化のよさを感じ、暑い季節を快適に過ごす生活の仕方考えることができたかどうかをワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け2を受けて、\_\_\_\_\_のように、日本の生活文化に着目し、自分や家族の生活と関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、学習課題を設定したかどうかを発言や挙手で判断する。
- ③ 働き掛け1・2・3・4を受けて、想定したそれぞれの資質・能力を発揮していたかどうかを発言やワークシートの記述で判断する。
- ④ 働き掛け5を受けて、\_\_\_\_\_のように、発揮した資質・能力を自覚したかどうかをワークシートの記述で判断する。